

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

昔、男ありけり。その男、^①身をえうなきものに思ひなして、京にはあらし、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。もとより友とする人、一人二人して行きけり。道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。そこを八橋といひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、^②八橋といひける。その沢のほとりの木の陰に下り居て、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「^③*****といふ五文字を上句に据ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、詠める。

A 唐衣きつつなれにしましあればはるるきぬる旅をしぞ思ふ

と詠めりければ、みな人、乾飯の上に涙落としてほとびにけり。行き行きて、駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入らむとする道はいと暗う細きに、蔦・楓は茂り、もの心細く、すずるなるめを見ることがと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、^④いかでかいまする。」と言ふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

B 駿河なるうつつの山辺のうつつにも夢にも人にあはぬなりけり

富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降りり。

C 時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ

その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ねあげたらむほどして、なりは塩尻のやうになむありける。なほ行き行きて、武蔵の国と下つ総の国との中にいと大きな川あり。それをすみだ河と言ふ。その河のほとりに群れ居て、思ひやれば、

^⑤限りなく遠くも来にけるかな、とわびあへるに、^⑥渡し守、「はや舟に乗れ、日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて^ア渡らむとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。さる折しも、白き鳥の、嘴と脚と赤き、嶋の大ききなる、水の上に遊びつつ魚を^イ食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ^ウ都鳥。」と^ウ言ふを聞きて、

D 名にし負はばいざと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと
と^エ詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

- (1) ①を口語訳しなさい。
- (2) ②について、「八橋」の名前の由来を、本文に即して説明しなさい。
- (3) ③について、次の各問に答えなさい。
 - (a) *****に当てはまる語を、平仮名五文字で答えなさい。
 - (b) このような技巧を何というか。答えなさい。
- (4) ④を口語訳しなさい。
- (5) ⑤を口語訳しなさい。
- (6) ⑥について、「渡し守」が動作の主体となっているのは、

~~~~ア〜エのうちどれか。一つ選び記号で答えなさい。

- (7) ⑦について、「都鳥」の様子を説明している箇所を本文中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。ただし、解答には句読点を含まない。

- (8) Aの和歌について解説した次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

Aの和歌には、様々な修辞法が用いられている。

- 「唐衣」は「き(着)つつ」の「き」にかかるアで、「唐衣きつつ」は「なれ」を導き出すイである。一つの言葉に二つの意味を持たせる表現技巧であるウも用いられている。そして、「き」「なれ」「つま」「はるばる」は「衣」のエである。

また、係り結びが用いられていて、係助詞「オ」の結びの語は「カ」で、その活用形は「キ」である。

- (a) ア 〱 キ に適切な言葉をそれぞれ入れなさい。

- (b) ウ をAの和歌から三つ抜き出し、それぞれの意味を説明しなさい。

- (9) 次のX・Yの説明に一致する和歌を、A〜Dから一つずつ選び記号で答えなさい。

- X 愛しい人が自分のことを思ってくれていないことを恨む歌。

- Y 愛しい人の無事を知りたいと願う歌。

高校古典

伊勢物語「東下り」(読解)

解答

- (1) 自分の身を(都にあっても)役に立たないものと思いついで、(もう)京にはおるまい、東国の方に、住むのに適当な国を見つげに行こうと思つて出かけた。

- (2) 流れ行く川の水が蜘蛛の手足のように八つに分かれていて、橋を八つ渡しているから。

- (3) (a) かきつばた (b) 折句

- (4) どうしていらっしゃるのですか。

- (5) 本当に遠くにやって来たものだなあ

- (6) ウ

- (7) 白き鳥の嘴 〱 つ魚を食ふ

- (8)

- (a) ア 枕詞 イ 序詞 ウ 掛詞 エ 縁語

- オ ぞ カ 思ふ キ 連体形

- (b) なれ…妻に「親しむ」意味と、着物を「着古す」意味。  
つま…「妻」の意味と「棲」の意味。  
はるばる…「遙々」の意味と「張る張る」の意味。

- (9) X B Y D